

# 食卓彩菜

この度は、「毎日のお惣菜」頒布会をご利用いただきまして誠にありがとうございました。

お客さま方の食卓に彩を添える季節の旬のお惣菜を、ひと品ひと品、まごころを込めてお届けいたしますので、味付けやメニュー、年サービス等についてお気づきの点がございましたら、同封のはがきなどで、何なりとご意見を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

3月号から引き続き、釜石市「宝来館」の女将、岩崎昭子さんの講演より、記事を書かせていただきます。

以前にも、書かせていただいた「釜石の奇跡」(現在、釜石市では様々な配慮もあり、「釜石の出来事」と言っています)は、子供たちが自分たちで考え、声をかけあい、小さな子供たちの手を取って避難し、高台へ逃げ助かりました。これは、田ころの避難訓練の賜物でもありました。震災前の3

月3日にも訓練し、余震のあった9日にも避難していました。震災当日、中学校の副校長先生は、「生きろよ〜!」と声をかけ、子供たちを送りだしたそうです。当時中学生だった生徒が、昨年母校に教育実習に来ました。そして、現中学生の生徒に「私は、あなた達のおかげで助かった。」と話したそうです。生徒たちは震災時小学1年生で隣の小学校の生徒でした。教育実習生は中学当時、何度も訓練をしているため、震災時に「これは訓練?本番なの?」と少し混乱していたそうです。その時、隣の小学校から飛び出してきた1年生の手をつかんだ瞬間「私は、小さな手のこの子を生かしたい!」と思い、その子を連れて必死に走って助かったそうです。女将さんも「私も流されて、瓦礫につかまっているときに、一瞬もうダメかなあと思ったけど、流されてきた近所の人の手をつかんで引っ張り上げた時に『生きよう!』と思いました。人は誰かの手をつかんだ時に『生きてい!』と思う。』と話されました。

人たかを不思議に思いながら自分たちで判断し、高台に避難し助かりました。残念ながら防災センターでは犠牲者も出ました。子供たちは、訓練や先人の教え「自分で考えろ!想定外のことには起る、先(先頭)に逃げる勇気を持って!」を守り、それぞれの判断で逃げて助かりました。大人たちの中には、ハザードマップを頼り、「ここまで来たら大丈夫!」と想定外のことに対処が遅れ犠牲になった方もいます。女将さんは、話します。「災害時は、親は子供を(自分で判断し)逃げてくれるであらうことを信じ、子供は親を信じ、それぞれが逃げて助からなければなりません。子供だけが生き残ってもだめです。大人も生き残らなければならぬ、震災孤児を作ってはなりません。大人は子供を守り、死なない大人にならないければならない」と。

ただきたい、できれば子供をたくさん産んでいただきたいなあ(笑)とも、望んでいらっしやいました。

震災後、会社の存続や復興に取り組んだ企業も、5年の猶予があった補助金等の返済が本格化した。宝来館」のような観光業は震災需要の収束等による宿泊客の減少、水産加工業は漁獲量の減少による原料不足と人手不足、ほかの企業も販路が回復しない等様々な要因から、震災より8年経った今、震災後1〜2年である程度戻ると思われていた見通しより、はるかに厳しい状況に置かれております。

3月23日には、三陸鉄道リアス線も全線開通いたしました。美味しい三陸の幸もあります。お土産もあります。岩手に、被災地に足をお運びいただき、新たな道を開拓しようと頑張っているたくましさ、元氣、また現状も自分の目で見て肌で感じていただきたいと願っております。

どうぞ、東北へ、岩手へ、被災地へおでっくなんせ! (おいでください)。